（以下は主に第一特集「おわりに」（61～67 ページ）のまとめです。ぜひ、記事も合わせてご参照ください。）

特集「地域の中の『コミュニティデザイナー』はいかに生まれるか」
インタビュアー・執筆者職員有志によるまとめ

◎住民の活動が活発な地域では、多様な人をつないで新たなコミュニティを創ったり、既存のコミュニティを活性化することで、課題解決や価値創造を実現している「コミュニティデザイナー」とでも呼ぶべき人々が往々にして活躍している。

◎「コミュニティデザイナー」の特長として、人々が集う「場」づくりや、「３つのＲ（ロール[役割]、リソース[資源]、リレイション[関係]）」のマネジメントに取り組んでいることなどが挙げられる。

◎今後、社会構造の変化により地域で活動できる層が薄くなる中では、「コミュニティデザイナー」による「ロール・マネジメント」（地域の方々にきちんと声をかけて、得意なことを活かせる役割や、都合にあった無理のない役割を割り振る）などが、地域の潜在的な力を引き出す上で重要となる。

◎「コミュニティデザイナー」は必ずしも特殊な専門家ではなく、何らかのきっかけを経てそのような活動を始めた方も多い。地域の中の「コミュニティデザイナー」が生まれるためには、地区センターや地域ケアプラザなど、多くの方々が集まるところでのきっかけづくりが重要である。具体的には声かけやイベントの開催、地域課題の提示などが考えられる。

◎すでに活動を始めている方に対しては、本当にその方のためになるサポートを行うことで、活動の発展につなげていくことが重要である。具体的には講座の開催や活用できる制度についての情報提供、ネットワークづくり支援、「場」づくり支援などが考えられる。

◎地域内の「つながり」の豊かさは、経済、防犯、教育などさまざまな領域への波及効果が大きいことが数々の研究により明らかになっている。地域の中で「つながり」を生み出す「コミュニティデザイナー」支援への投資には高い費用対効果を期待できる。

◎様々な取組に内在する「つながりづくり」の効果を認識しうる「評価軸」を持つことが重要である。例えば地域内の「つながり」や「コミュニティデザイナー」的な活躍をする人材が増えているかという評価基準が設定されていると、事業等の組み立て方も変わってくる。

◎市職員は日々の業務の中で「コミュニティデザイナー」を支援するとともに、状況に応じて「コミュニティデザイナー」的な視点を持ちながら、自らの役割を果たすように努めることが必要である。

【インタビュアー・執筆者職員有志】　健康福祉局地域支援課 大橋・前田、鶴見区区政推進課 野崎、神奈川区こども家庭支援課 松村・戸矢崎、西区区政推進課 渡部、教育委員会事務局南部学校教育事務所 伊藤・高橋、旭区区政推進課 田中・小山・武田、金沢区地域振興課 岩屋・山村・末岡、市民局市民情報室 魚屋、南区地域振興課 廣井、港北区港北土木事務所 浦山、港北区地域振興課 北風、緑区地域振興課 安養寺・門脇・北見、都筑区地域振興課 山口・武智・瑞岩、栄区高齢・障害支援課 勅使川原・田中、瀬谷区福祉保健課 藤澤、市民局地域活動推進課 中盛・圓城寺、港南台第二小学校 山手、教育委員会事務局学校支援・地域連携課 吉田、市民局市民協働推進部 小室、市大付属市民総合医療センター総務課 田中、政策局政策課 小林・寺岡・米満